

無料です
ご自由にお取り下さい

I O R I 工房カタログ (鉄道編 Ver2.1)

レーザカット済ペーパーキット 明治の客車シリーズ

建築模型にも使われているスノーマット紙をレーザークットマシンで裁断しキット化したシリーズです。今回はあまり鉄道模型として見かけない明治の客車をキット化してみました。

※適合下回りは専用台車を使用しない場合のものです

ロ75

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治23年にイギリス、メトロポリタン車輛会社にて2両が製造された2等車です。中央に便所、左右に客室を配する車内レイアウトが特徴で、形式違いの同型車が多数存在しました。



ロハ851

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治27年に新橋工場で5両が製作された、二、三、等合造車です。車輛の前後で等級を分ける通常の合造車と異なり、車体中央に2等室があり、両端に3等室がある構造が特徴です。



ハ1005

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治22年～明治39年に製造された同系車をまとめたグループで、その総数は全体で500両近くに及び、四輪単車群の中でも一大勢力を誇りました。製造時期、工場の違いで外観に少しずつ違いがあります。今回はそんな一族から、明治26年に山陽鉄道兵庫工場で製造されたハ1774をプロトタイプにしました。



ハ4975

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治29年～30年に東京、平岡工場にて3両が作られました。3等車でありながら客室区分が4つと、同時代の他の3等車に比べて（区分5つが標準的）ゆったりとしていて、油灯も各コンパートメントに一つずつ配されるなど、かなり贅沢な作りです。



ハ4995

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 黒
下回り 黒

明治26年に新橋工場で製造されました。上のハ4975の中の、少しタイプが違うものです。現在は加悦SL広場にて保存されています。



フハ3109

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治30年～32年にかけて3両が製造されました。車端部に飛び出したブレーキハンドルカバーがよいアクセントとなっています。



ハフ2997

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(ワム系)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

明治25年に6両が製作された三等緩急車です。車掌室を広くとっているため、ブレーキハンドルは車内に納められ、半円状のカバーがありません。他車にも移動できるように、貫通扉がついているのが特徴です。



ニ4044

1/150 N

- 適合下回り
河合の貨車
(大柄のもの)
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒

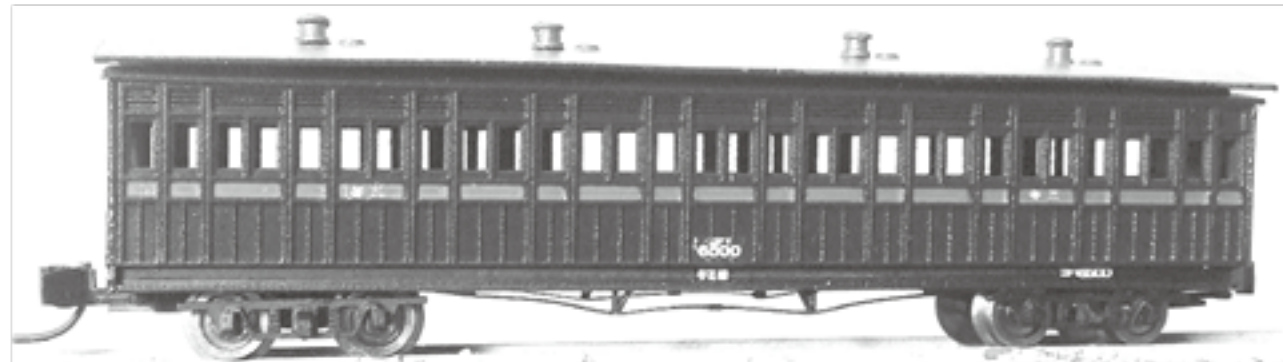
割とポピュラー（であろう）荷物車です。明治23年～24年にかけて17両が製造されました。他の客車より少し大柄な車体に、ずらりと並んだ井桁が壮観です。



コハ6500

1/150 N

- 適合下回り
鉄コレ用車輪
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ブドウ色1号
下回り 黒



明治8年～明治9年にイギリスで9輛、国内で1輛が作られた、日本初のボギー客車です。国鉄では仙台局管内で昭和24年まで使用されていました。

ナハ22000

1/150 N

- 適合下回り
KATOオハ31
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒



1919年から1927年にかけて1600輛以上が製造された、戦前の代表的な木造客車です。全国津々浦々を走りましたが、老朽化に伴い、いわゆる鋼体化改造工事（60系客車）の主な種車となりました。

ナハフ24000

1/150 N

- 適合下回り
KATOオハ31
- 塗装
屋根 ダークグレー
車体 ぶどう色1号
下回り 黒



ナハ22000の緩急車版です。ナハ22000と本車、そして8620形蒸気機関車との組み合わせは全国で見られ、この列車が走らなかった線区は無い、とまで言われました。

レーザーカット済ペーパーキット 軍用列車シリーズ

建築模型にも使われているスノーマット紙をレーザーカットマシンで裁断しキット化したシリーズです。鉄道模型として作られることがあまりない軍用列車をキット化してみました。



1/160 N

九四式装甲列車

- 適合動力 マイクロエース 9600機関車
- 適合下回り ピン止め貨物用小型台車
- 塗装 外装：日本陸軍黄帯迷彩 底部及び裏側：黒

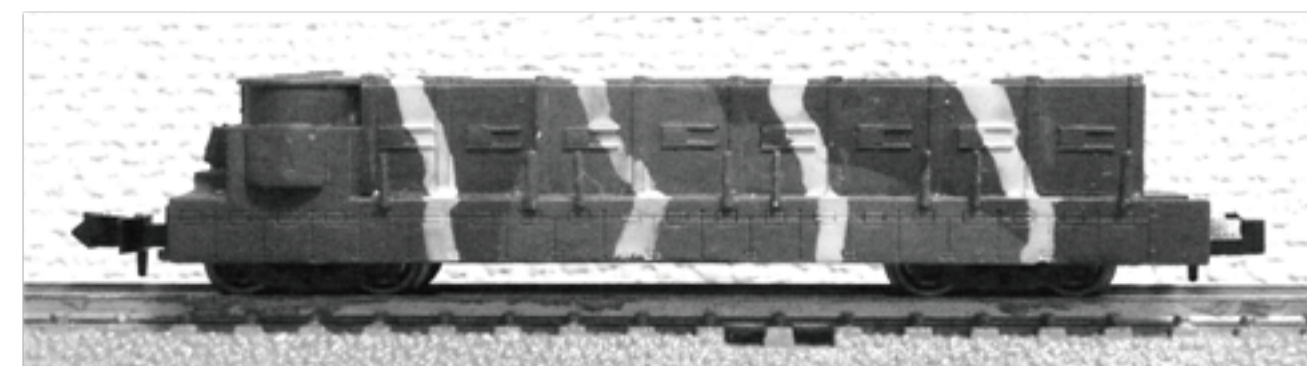
大日本帝国陸軍の装甲列車で、南満州鉄道株式会社にて製作されました。火力を正面に集中できるように火砲車が配置され、走行射撃ができるように設計されています。また装甲列車としては珍しく歩兵車を廃止し、単独での戦闘に重点を置いています。その自慢の戦闘力で中国戦線で暴れまわったそうです。(具体的には中国軍の占領する駅に突入して奪取するとか)

警戒車

1/160 N

- 適合下回り 貨車用 小型台車 (ピン止め)
- 塗装 車体 日本陸軍 黄帯迷彩 下回り 黒

満鉄の50t石炭車タイ型を基に新製されたもので、30cm探照灯と九二式重機関銃を2挺装備しています。他にもレールや枕木などの保線用資材を搭載していました。

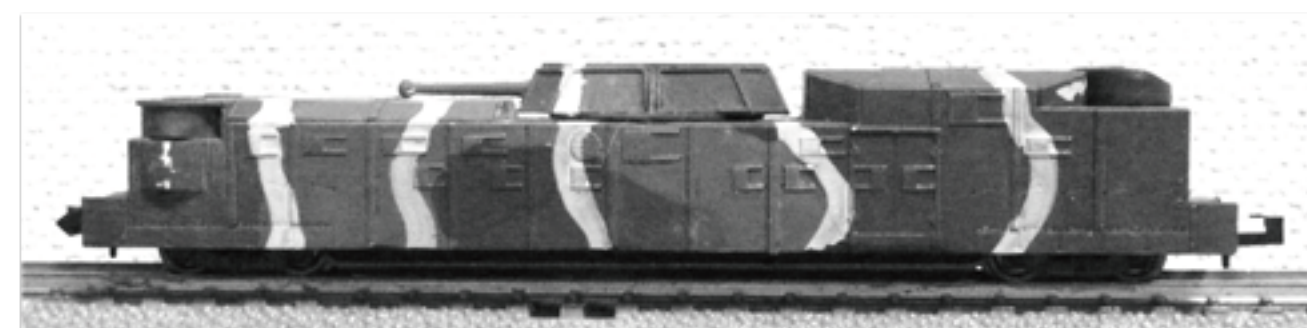


火砲車甲

1/160 N

- 適合下回り 貨車用 小型台車 (ピン止め)
- 塗装 車体 日本陸軍 黄帯迷彩 下回り 黒

満鉄の60t無側車チイ型を基に新製されたもので、十四年式十糎高射砲と九二式重機関銃を4挺装備しています。高射砲の搭載された砲塔は高射撃はできず平射撃専用ですが、走行射撃ができるように改造されていました。



火砲車乙

1/160 N

- 適合下回り 貨車用 小型台車 (ピン止め)
- 塗装 車体 日本陸軍 黄帯迷彩 下回り 黒

満鉄の60t無側車チイ型を基に新製されたもので、搭載兵装等は火砲車甲と同じですが同時射撃ができるように車高が一段高くなっています。



火砲車丙

1/160 N

- 適合下回り 貨車用 小型台車 (ピン止め)
- 塗装 車体 日本陸軍 黄帯迷彩 下回り 黒

満鉄の60t無側車チイ型を基に新製されたもので、八八式七糎高射砲を2門を砲塔に装備しています。他の火砲車と違い対空射撃が可能でした。九四式装甲列車の中で唯一図面のある車両です

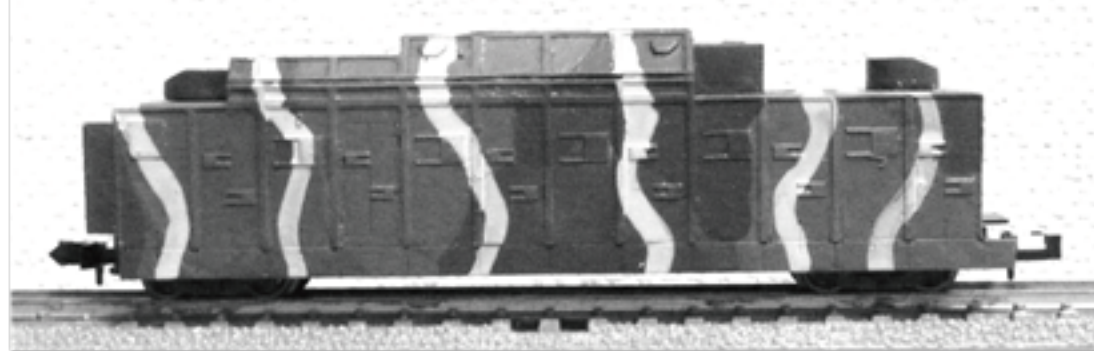


指揮車

1/160 N

- 適合下回り
貨車用 小型台車
(ピン止め)
- 塗装
車体 日本陸軍
黄帯迷彩
下回り 黒

満鉄の60t石炭車タサ型を基に新製されたもので、
戦闘に必要な観測設備や無線設備を装備しています。
そのほか兵装として九二式重機関銃2挺を装備しています。
車体屋根上の無線用アンテナは走行に支障があるため省略しています。

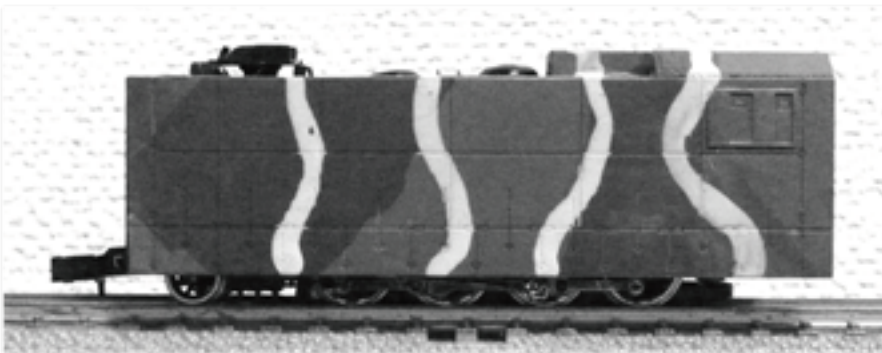


機関車

1/160 N

- 適合動力
マイクロエース
9600形機関車
- 塗装
車体 日本陸軍
黄帯迷彩
下回り 黒

満鉄用にミカド型機関車を新製し装甲を施したものです。
編成での最大速度が65km/hとなっています。
マイクロエースの9600形機関車にかぶせています。



炭水車

1/160 N

- 適合下回り
貨車用 小型台車
(ピン止め)
- 塗装
車体 日本陸軍
黄帯迷彩
下回り 黒

車体は新製されたもので航続距離150km分の石炭と水が積載でき、
武装として九二式重機関銃を2挺、押出し式の銃塔に装備しています。
マイクロエースの9600形機関車の炭水車と交換して使います。



電源車

1/160 N

- 適合下回り
貨車用 小型台車
(ピン止め)
- 塗装
車体 日本陸軍
黄帯迷彩
下回り 黒

満鉄の60t石炭車タサ型を改造したもので、発電設備や
遠距離無線設備を装備しています。そのほか30cm探照灯と
九二式重機関銃を2挺装備しています。車体屋根上には
無線用アンテナがあり、電波反射を防止するため
屋根表面はフェルト系の非金属が使用されています。



T型クラシックカー

1/150 N

- 塗装
車体 黒
グリル 金
タイヤ 白
ホイール 茶

1910年代中頃にアメリカで製造
された大衆車で、アメリカのみ
ならず世界各国で普及しました。
日本では主にタクシーとして使
われました。



IORI 工房

発行日 2012年7月1日

発行者 IORI (IORI工房)

TwitterID: @iori_koubou

HP <http://iori.uji-masa.com/>

blog <http://iori051039.blog83.fc2.com/>

(「IORI工房」で検索)

mail iori.koubou@gmail.com